

事例の区分

事業区分	公園整備事業
配慮概要	自然保護団体との協議や施工時の水質浄化による動植物への配慮

事業の概要

事業名	うつのみや文化の森
実施場所	栃木県宇都宮市「うつのみや文化の森」
事業主体	栃木県宇都宮市（担当部局：企画部文化の森推進室）
実施期間	平成6年3月～平成8年3月
全体事業費	-
事業規模等	宇都宮市長岡町1077 うつのみや文化の森内 A = 26 ha
事業概要	うつのみや文化の森事業は、平成元年度に北部リゾート構想として、芸術、歴史、科学をテーマに計画された総合公園である。 本事業の最も大きな特徴は、自然環境と芸術(美術館)の異なる要素を公園整備により共生させたことである。

環境配慮の内容**動植物**

- ・ 駐車場等、大面積を必要とする施設は、農地の平坦な地形を利用して配置し、大掛かりな地形の改変を避けて生態系に重要な樹木林は極力保全した。
- ・ 美術館は、生態系に影響の少ない植林部に配置し、一部雑木林にかかる箇所は、重機により林をまるごと移植した。
- ・ 調整池は生態系に影響の少ない植林部に配置し、現況地形を極力保全した。
- ・ 調整地の護岸には周辺地区に見られる自然石を使用し、水生動植物の生息環境を確保した。
- ・ 小動物、鳥類の繁殖期の工事は避けた。
- ・ 計画策定中に計画地内で貴重な動植物の生息が確認されたため、自然保護団体と保全対策について協議を行い、現地調査と環境変化のモニタリングを繰り返し行い、その結果を計画、施工に反映した。

水質

- ・ 施工時の下流域の動植物への影響を考慮し、水質(アルカリ濃度)の定期的調査、水質保全策(スギ葉による水質浄化)を行った。

環境配慮の結果

- ・ 林の移植により樹林に生活する生物をそのまま移動でき、現況に近い状況で自然環境を再生できた。
- ・ 現在、うつのみや文化の森には野鳥や昆虫が戻り、開発前と同等の自然の回復が確認されている。

今後の留意事項等

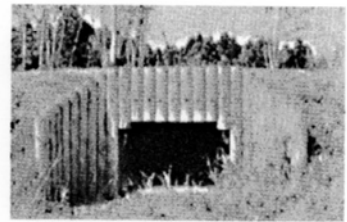
- ・ 従来の設計に比べ時間、手間はかかったが、多様な自然環境の中に施設を建設する上ではこのような手法が有効であると考えられる。



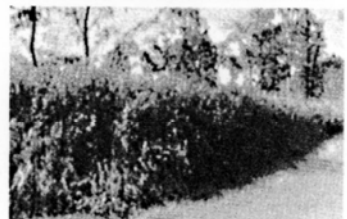
全体図



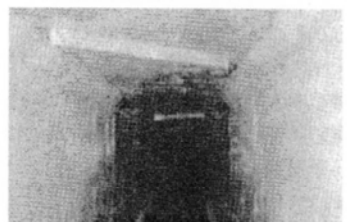
自然観察路沿いに配置されたソダ柵



獣道を兼ねて整備した横断排水路



駐車場の落差を草の壁で処理する
(生物のすみか)

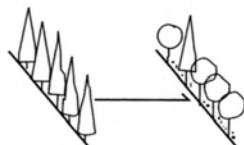


コウモリの営巣を目的とした止まり板を放水路内に埋め込む

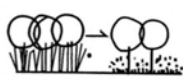
環境整備例



工事における水質の保全
動植物への配慮
* 土砂の流出防止と自然の回復を促す



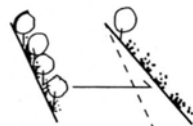
スギ・ヒノキ林から雑木林への
林相の改変
* 多様な生物層を作る



雑木林整備
(林床の整理・間伐)
* 萌芽更新



重機による大径木の移植
(表土の保全)
* 造成による林の移動



稀少種の移設
* 造成による移植

自然環境に配慮した段階的な整備スケジュール (公園整備フロー)

出典

「公共事業環境配慮ガイド 事例No.42」 宮城県